

平和への道

米軍カンボジア侵攻抗議 学内集会→全大坂学総決起

<12:30 大集会室>

<6:00 扇町公園>

米軍による強権的カンボジア侵攻を糾弾し、佐藤政府の日米共同声明実質化—東南アジア侵略を阻止しよう

全市文の学生・院生 敬職員の皆さん!本日、12時半より学生ホール大集会室において行なわれる学内集会に結集し、米軍のカンボジア侵攻抗議、佐藤政府の「アジア会議」への受知外相派遣阻止への固い意志統一をもちとり、6時より扇町公園において行なわれる「米軍のカンボジア侵攻抗議全大坂学総決起」に決起されることを呼びかけます。

4月30日のカンボジアへの米軍侵入以来、米帝の強権的な侵攻にもめげず、インドシナ内外における反帝平和勢力の闘いは、はっきりと前進していき。すなわち、5日エヌマーカを中心とするカンボジア民族統一戦線は王国民族聖王政府の樹立を打ち立てているし、中・ソを先頭とする国々も熱烈な支持の声明を発表していき。私たちはこのような反帝平和勢力の圧倒的な力をはっきりと確認し、同時に、米国内の反戦勢力との連帯のもと、佐藤政府による積極的な東南アジアへの侵略を阻止していかねばならないでしょう。

佐藤政府の動向

(朝日新聞 5/7 夕刊)

「北」も米も撤退を 政府の基本方針

政府は7日午前10時から首相官邸に受知外相、中曽根防衛庁長官、保利官房長官を集めて外交・防衛連絡会議を開き、カンボジア紛争解決についての政府の基本的な態度を話合った。この結果、政府は、カンボジア紛争の原因は同国に北ベトナム、民族解放戦線勢力が以前から浸透しており、このためカンボジアの中立を保つには、こんご北ベトナム、民族解放戦線、それに米軍、それぞれを撤退すべきだとの点で意見が一致した。

受知外相は、こうした基本的な考え方に立って、マリウ・インドネシア外相提議によるアジア会議に出席し、カンボジアを中心とするインドシナ半島全域の平和のため積極的に働きかける方針。(傍点 平和委員会)



沖縄からの海兵隊空輸 厚木から2日連続

加代水陸?

(朝日 5/6 朝刊)

防衛施設庁が米軍から得た情報によると、富士山ろくで演習する沖縄駐留の米第三海兵師団の一部約400人が6日夕、輸送機で神奈川県米軍厚木飛行場に到着し、うち200人が同夜トラックで米軍キャンプ富士に入った。7日にもさらに海兵隊300人が沖縄から厚木へ空輸されるといわれる。昨年秋から沖縄駐留海兵隊の富士山ろくでの演習が再開されたが、これまでは上陸用舟艇で沼津海岸へ上陸していた。防衛施設庁では過去に沖縄からの演習部隊の空輸された例はなかったといっており、カンボジア情勢の悪化にともなう緊急空輸訓練を兼ねたものではないか、という見方をしている。

チャップマン米海兵隊司令官は先に太平洋全域での非常事態に備えるため沖縄の海兵隊を緊急派遣部隊に再編成したことを明らかにしており、今回の空輸作戦は、日本と東南アジアの危機を直接結びつけるものとして今後、国会などでも議論を呼びそうだ。